

建築化照明

1

建築化照明の種類

①光天井照明(LUMINOUS CEILING)

光天井照明は天井面に拡散透過材(乳白プラスチックなど)をはり天井内部に光源を配置し、柔らかい光とすっきりとした照明効果が得られる照明手法です。

エントランスホールやショールーム、器具の映り込みが少ないことから発電所の制御室などに用いられます。

◆配置のポイント

直管形ランプの場合、カバー面に明るさのムラを出さないために、ランプの間隔はカバー面からランプまでの距離 1.5 倍以内になります。

拡散透過材によりランプイメージが強く出る場合がありますので素材によって配置間隔を検討します。

②ルーバ天井照明(LOUVERED CEILING)

天井全面にルーバを張り、その上部に光源を配置したもので光天井の拡散透過材がルーバに置き換わったものです。

光天井との違いはルーバを通して下方方向に垂直光が照射され、斜方尚向からはルーバの保護角によってランプが直接見えないように設計されています。一般的に保護角は30°と45°となっています。

◆配置のポイント

直管形蛍光ランプの場合、ルーバ面に明るさのムラができないようにし、かつ直接光源が目に入らないようにランプ間隔はルーバ面上からランプまでの距離に対し、保護角 30°の場合は 1.5 倍、45°の場合には 1.0 ~ 1.5 倍以内になります。

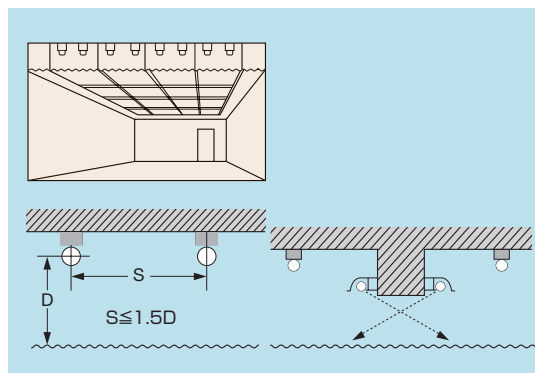


図1 光天井照明

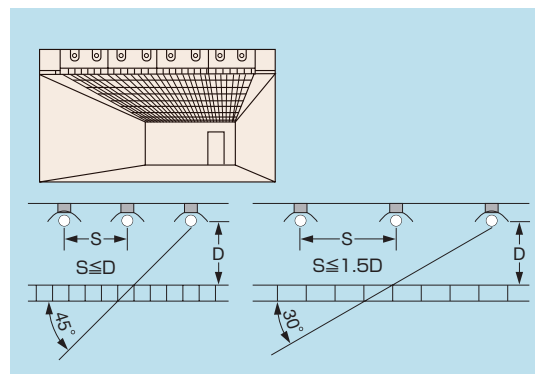


図2 ルーバ天井照明



図3 ルーバ天井照明例

③コーブ照明(COVE LIGHTING)

コーブ照明は、光源を天井あるいは壁面に取付け、その直接光をいったんコーブの壁や天井に反射して間接照明にし、その反射光によって室内を照明する方式です。

効率が悪いいため、比較的、作業面照度を必要としない場所の雰囲気照明や、他の照明と一緒に使われます。

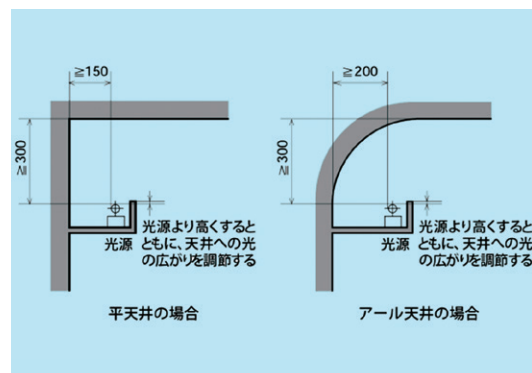


図4 コーブ照明



図5 コーブ照明例

④コファーマ照明(COFFERS)

天井面を丸や四角に切り込んだ内部に埋込み器具が入り天井の単調さをなくす方法です。

銀行の営業室、役員室、ビルのホール、レストランなどに多く用いられます。

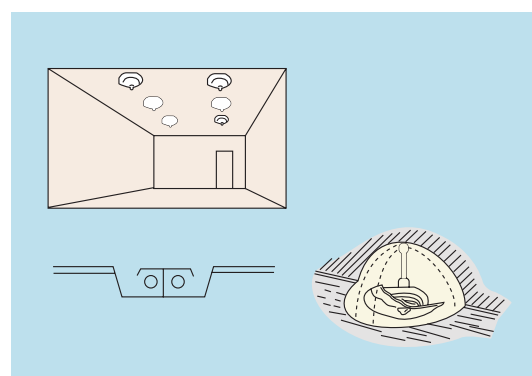


図6 コファーマ照明

⑤ダウンライト照明(DOWN LIGHTING)

この照明は光源を天井内に埋込み、この穴から光を床に照らす天井埋込みの照明方式です。

天井直付やペンダントの照明と異なり、小さな穴が数多く天井面に配置され、天井面を見たときに視界の妨げになるものがなく、建築の空間を有効に使えるのが特長です。

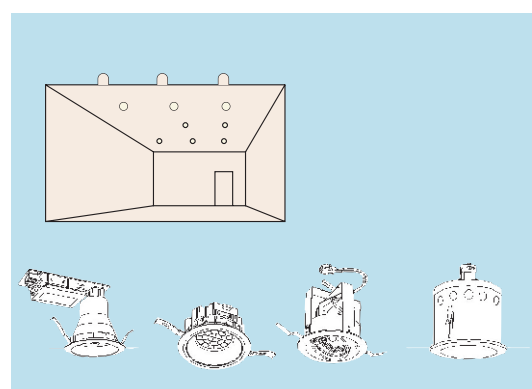


図7 ダウンライト照明

⑥コーナー照明(LIGHTED CORNERS)

天井と壁面との境の角に器具を配置して、天井と壁面とを同時に照射しながら室内を照明する方法です。

比較的柔らかな光が得られ料亭の大広間や地下道の照明によく使用され、天井の低い場所に適しています。

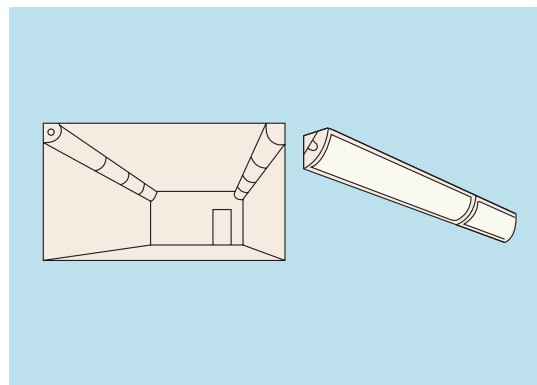


図8 コーナー照明

⑦コーニス照明 (CORNICE LIGHTING)

壁などの垂直な面の上から下に向かって照射する方式で、壁、カーテン、窓などを美しく表現します。

蛍光灯の建築化照明として広く用いられ、天井が低い室に適しています。

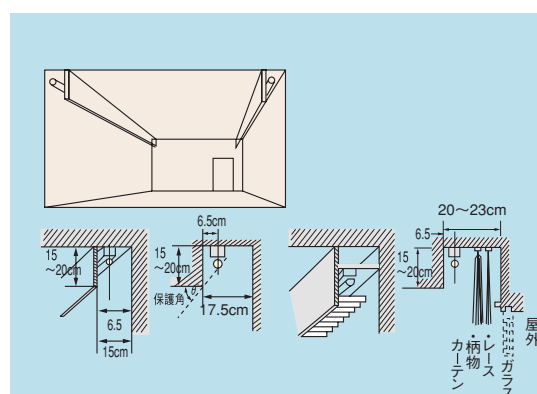


図9 コーニス照明

⑧バランス照明 (VALANCES)

壁面などに取り付けられ上下に光を出す方式です。下方も明るさをもたらすだけでなく、上方の光が天井面を明るくし、明るさ感のある空間をつくる照明効果が期待できます。

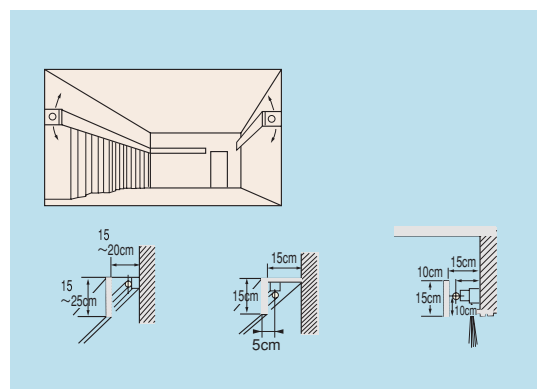


図10 バランス照明

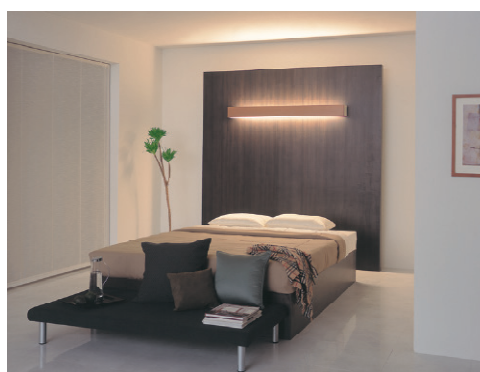


図11 バランス照明例